



代表 富岡雅美さん

地元生産者の方と協力し、品質の高いえごまを安定して栽培できるよう体制を整えています。健康食品として優れ、おいしい地元産のえごまをぜひ味わってみてください。

☎本庁舎農政課 内2225

白河ブランド

認証第32号	えごまドレッシング
認証第33号	えごまポン酢



(有)日本メグスリノキ本舗 白河が誇る優れた産品を紹介！

表郷・東地区の提携農家で栽培された地元産の「えごま」を使用したドレッシングとポン酢です。

「えごま」はじゅうねんとも呼ばれ、昔から食べられてきましたが、最近健康食品として広く注目を集めています。このドレッシングとポン酢は「えごま」を手軽に美味しく食べられるよう工夫し作られています。

まろやかな甘みとコクのあるドレッシングは、サラダや豆腐、しゃぶしゃぶに抜群に合います。また、鍋がおいしいくなるこれからの季節、鍋料理をえごまポン酢でいただくのもおすすめです。食欲の秋、ぜひ季節の野菜などと一緒に味わってみてください。

シリーズで学ぶ 白河歴史人物伝

Vol. 6

定信に仕えた江戸画壇の重鎮

谷文晁

(1763～1840)

谷文晁は、松平定信の実家でもある徳川御三卿・田安家の家臣・谷麓谷の子として江戸に生まれました。絵は10歳の頃から、狩野派の絵師であった加藤文麗に学び、続いて渡辺玄対に学んでいます。寛政4年(1792)には松平定信付となり、以後定信との関係は生涯にわたります。

文晁は江戸の下谷(現東京都台東区)に画塾「写山楼」を構え、全国から多くの入門者がありました。中国画、日本画、西洋画などを旺盛に学び、それらを折衷して幅広い画風の作品を残しました。当時江戸の絵師としては最も有名な人物の一人でした。

《松平定信と文晁》

当時幕府老中の職にあった白河藩主松平定信は、伊豆・相模巡視に文晁を伴い、海岸の様子を写実的画法で描かせています(国重要文化財・公余探勝図巻)。また、定信が全国の古宝物を調査・模写させ、『集古十種』『古画類聚』を

編さんした際にも、文晁が関わりました。二人は私的に多くの書や絵のやり取りをしています。

《白河での足跡》

文晁の弟子には、白河の絵師である大野文泉、蒲生羅漢などがいました。また、文晁作品の中には、落款に「於小峰山房」などと書かれたものが数点確認されています。これは文晁が定信に伴って白河を訪れた際、小峰城内に構えた工房で制作した作品で、白河における制作活動をうかがわせる貴重な資料でもあります。



▲「白河楽翁公下屋敷真景図」小峰城三之丸の庭園を描いた作品。小峰山房で描かれたもの(白河市歴史民俗資料館蔵)。



▲「杭州四季風俗図巻」中国の風俗図を模写した作品。(白河集古苑で11月6日(日)まで展示中(松浦史料博物館蔵))

☎文化財課 ☎22310